

# 建交労鉄道本部ニュース

2022年10月14日 No. 243 TEL 03-5386-6491 FAX 03-5386-6492

## 物価上昇で賃金は日増しに目減りするばかり 暮らしを守るため一時金要求の満額回答を

全国鉄道本部は秋期年末闘争において働く者と家族の暮らしを守る積極的な要求を掲げ、建交労統一要求提出日の10月14日を軸としてJR各社に申し入れを行います。

岸田政権が発足して1年、臨時国会の所信表明演説で岸田首相は「日本経済の再生が最優先の課題」と述べ、物価高・円安への対応や賃上げを重点課題にあげましたが、「異次元の金融緩和」が異常な円安を招き、物価高に拍車をかけ実質賃金を目減りさせていることへの反省もありません。一方、原材料価格の高騰や急激な円安進行を背景に、10月から食料品を中心とした生活必需品約6500品目が値上げされ、さらには75歳以上で一定の所得のある人の医療費の窓口負担が2倍となるなど高齢者にとっても重い負担増となっています。こうした中、JR貨物への申し入れでは「今春闘において0.1%の賃金改善はあったものの社員の生活改善には至りません」、夏季一時金について「自然災害の影響や2021年度決算において経常利益が単体で△12億円となったことを理由に昨年を下回る回答となり、社員の不満は増大している」としています。コロナ禍であってもJR各社のグループ会社を含め現業機関で働くすべての労働者が、社会にとって必要不可欠な鉄道輸送を安全・安定して維持するため、日夜を問わず感染のリスクと向き合いながら職務を遂行しています。一時金は社員の生活を支える重要な生活費です。労働者の頑張りに報いるためには、年末一時金の満額回答が不可欠であり、全国鉄道本部は切実な要求の実現に向け団交を強化します。



## 廃線ウオーク旧日高線を歩くin浦河に参加して

JR北海道の日高線(鶴川～様似間)が2021年4月に廃止・バス転換が決まりました。私たちは「JR問題を考える苫小牧の会」として活動してきましたが、「会」は解散せず、今後、旧日高線での活動ができるようにと思い継続をしているところです。

9月11日に浦河町で「日高線を歩く会」が実施されました。当日、池田沢浦河町長から経過が報告され、この廃線を何とか生かすことができないかと、浦河に「鉄道活用プロジェクト」旧日高線を歩く会を昨年立ち上げた、とのことでした。

苫小牧からは8名が2台の車で朝5時に出発、途中、休憩を取りながら、目的地の旧・日高幌別駅(苫小牧から約137キロ地点)に8時過ぎ到着しました。現地での参加者は72名、ボランティア66名、高校生9名、教員1名、累計138名。8つのグループに別れ、4キロコースと8.4キロコースを歩きました。浦河の職員をはじめ数多いボランティアがこのイベントを成功のため努力されたことに感謝します。

廃止になった鉄路は真っ赤にさびがついてました。線路内には砂利・砂揚などがあり、途中4カ所の鉄橋では迂回路がもうけられており、参加者は全員ヘルメット着用しました。また、「参加者の安全を守るため、地元で8.4キロに及ぶ草刈りを実施した」と加藤広明会長が語っておりました。三石はじめ、あちらこちらで海のおい、昆布の香りを感じる季節でした。漁業者の「昆布取り・昆布干し」は8月に雨が多かったので9月に延びたとのことで、浜は家族の応援でいっぱいでした。帰りは浦河と言えば競走馬なので、谷川牧場へ伝統の5冠馬「シンザン像」を訪ねてきました。

(JR問題を考える苫小牧の会・副代表伊藤貞市・鉄道本部苫小牧支部)